

呉羽丘陵 11月の見どころ紹介

主などんぐりの見分け方

<p>●コナラ 縦に筋あり。 殻斗(かくと) はうろこ模様</p>	<p>クヌギ 殻斗(かくと) は反り返る</p>
<p>●シラカシ 殻斗(かくと) はよこじま模様</p>	<p>マテバシイ 白いろ状の もので覆われ、 おしりは凹む</p>

・うち渋みのないのは「マテバシイ」 また、実が落ちた翌年に芽吹くのはコナラとクヌギ。他は2年後

●カラタチバナ(群落多し)



サクラソウ科ヤブコウジ属の常緑小低木。果実は11月頃に赤色に熟し翌年の4月頃まで残る。マンリョウ(万両)、センリョウ(千両)、カラタチバナ(百両)、ヤブコウジ(十両)

●カラスウリの実(呉羽トンネル上)



日本原産、ウリ科。青い実は食べられます。果実・種・根ともに生薬として利用されています。ゼンソクやしもやけなど

●えかきむし



ハモグリバエなどの幼虫は葉にもぐって、模様を画くように食害して白っぽいスジ状の痕をつけるためエカキムシ(絵描き虫)と呼ばれます。葉を食害してしまうので、園芸では害虫とされま

●サルトリイバラ(群落多し)



山野や丘陵に自生する雌雄異株のつる性の半低木。若葉は5-6月、果実は10-11月ごろに採取し、食用にできる。若葉はくせがなく、軽く茹でて水にさらし、おひたしや和え物、炒め物などに調理される。赤い果実は、そのまま生食したり、焼酎に果糖を加えて漬け込んで果実酒にもできる。

●ヤブミョウガ(杉木立付近)



葉は表面がざらつくところ、葉が2列に出ないことなどでミョウガと区別できる。なお、ヤブミョウガはツクサ科、ミョウガはショウガ科であり、薬味のミョウガはツボミに白い花を咲かせる。

●クルマバハグマ



近畿地方以北の主に日本海側に自生する多年草。山地の林床に生え、草丈は30~60cmで車状に6~8枚つく。成長が遅く、種子発芽から繁殖段階に達するまでに25年程度、時には100年以上かかるということもある。ふつつ、個体は80年ほど生存する